

平成25年度沖縄総合事務局開発建設部コンプライアンス・
アドバイザー委員会（第2回）の議事概要について

1. 日 時：平成26年3月18日（火） 15時～16時45分
2. 場 所：沖縄総合事務局 共用会議室C（2階）
3. 出席委員：委員長 阿波連 光 弁護士
委員 友利 果苗 税理士
4. 議事概要
 - 1) 平成25年度開発建設部コンプライアンス推進計画の取組状況の報告
 - 2) 平成26年度開発建設部コンプライアンス推進計画（案）について
5. 各委員からの主なご意見等
 - ・「コンプライアンス宣言」を発することは、職員の意識高揚を図る良い取り組みである。
 - ・コンプライアンスは、範囲がものすごく広いので、研修範囲を絞る等、職員が具体的なゴールや目標が見えるように、分野を分けて実施した方が良い。また、職員の経験年数に応じた分野で実施する等の研修の差別化が必要である。
 - ・研修プログラムを作成して3年で一周する等の取り組みも必要である。
 - ・コンプライアンスは、立場によって求められるものが違う。特に管理職の場合は、「管理職としてどう行動すべきか?」、「部下を持つ管理職として、部下から相談された場合の対応」などそのスキルがしっかり備わるような研修が良い。
 - ・コンプライアンスは、県とか市町村も含めて一体となって取り組み、そのことにより業界全体としても取り組むと思われる。
 - ・発注者綱紀保持マニュアルを職員へ理解させるためには、個別に説明会を開催した方が良い。また、1年後にマニュアルの使い勝手についてのアンケートを取り、PDCAサイクルの手法で改善を図ることも大切である。

- ・ 不当な働きかけの判断は、ものすごく難しい気がするので、ある程度、具体的な例を示す等、工夫して窓口担当の職員へ周知した方が良い。個々の職員の考え方がバラバラだと意思の疎通や統一性が図れないので、具体的な事例を示して説明した方が良い。
- ・ 民間の事例では、ミーティング後のアンケートで「これはどうかな？」という意見が出た場合、その部署に対しては、次のミーティングでその課題を中心に実施してもらい、「その結果はどうだったのか」という進め方もやっている。具体的に課題を解決していく上では、このような進め方も議論が深まって良いと思われる。
- ・ パソコン画面へのコンプライアンスメッセージは、職員が興味を持つような見せ方も大事であり、メッセージを送り続けることも意味のあることである。
- ・ 職員へ業者名のマスキングの目的をしっかりと理解させる必要がある。
- ・ 次年度以降の監査で指摘事項があった場合は、PDCAサイクルの手法で各部署に考えさせ、改善させることが大事である。また、各部署の内部監査の結果は他の部署にも周知し、推奨事例は、他の部署へも広げていくことが大切である。

以 上